特集●ジャカルタ

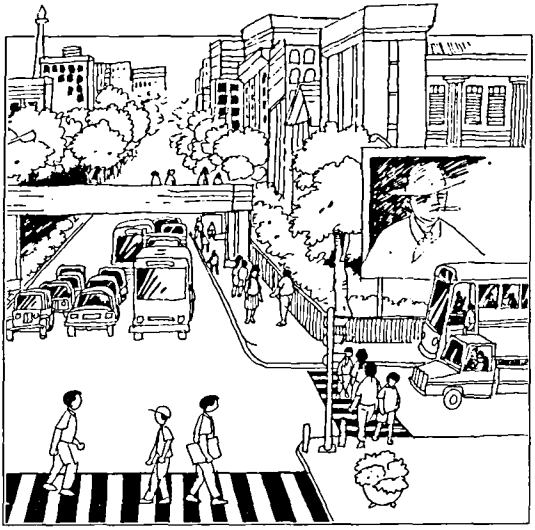
ジャカルタの生活環境教育

中矢礼美

ジャカルタ市は、住民問題（人口過密）、環境問題（水質汚染、地質汚染、大気汚染）、ゴミとゴミ処理場の問題、交通問題（渋滞、交通違反）、社会問題（スラム、犯罪行為、賭博、売春婦）など多くの課題をかかえている。ジャカルタの理想的な人口は、約七〇〇万人であるが、すでに八二〇万人に達し、二〇〇五年には一六〇〇万人に達すると予測され、適正な人口密度を過度に超えることは避けられない状況になっている。その人口の爆発的な増加に伴い、土地の有効利用は深刻な課題となっている。工場汚水は処理場で処理してから流すこととなっているが、多くの場合実行されておらず、規制を強めなければならない状況にある。約一七〇万台の車や単車と工場の煙からの二酸化炭素ガスによる大気汚染は、労働人口の二五％を占める農家に悪影響を与え、経済利益の追求が身体的、精神的な人間のニーズを犠牲にしている。ジャカルタの一日のゴミの量は六〇〇〇トンに及んでいるが、ゴミ処理を行う人数不足（ジャカルタでは都市清掃に一万六〇〇〇人必要であるが、実際は七〇〇〇人足らずである）と施設や設備の不足により、回収率は八二％にとどまっている。

したがって、ここで生活するには、運転手と自家用車がないかぎり（交通渋滞だけは避けられないが）、非常に強い精神力と体力が必要となる。近場への移動に最適な乗り物、バジャイ（三輪自動車）に乗ると、真っ黒の排気ガスをもろに受け、ハンカチで鼻と口を思わず覆い、目からは涙である。バスターミナルでは物乞いを踏まないように、人込みを掻き分けながら、鼻にツンとくる強烈な悪臭と暑さのなか、行き先を叫ぶ声をたよりに、走りながらバスに飛び乗る。歩道はほとんど整備されておらず、悪臭のただようゴミの浮かんだ川の横のがたがた道をよたよたと歩くと、水浴びをしている人に出くわして、仰天したりもする。雨が降ると状況はさらに悪くなる。計画性もなく建てられた込み入った住宅地は、あっというまに床上浸水し、汚物も何もかもが溢れ出し、机の上で寝ることになる。

このような劣悪な生活環境を改善するため、ジャカルタ市当局は「美しいジャカルタ都市を実現するなか



「上の紙をみて，コメントを述べなさい」
1年生教科書，p. 213 より．

うものであるが、現行の社会科では、地域社会の問題は小学校第四学年で扱われるのみであり、多くの問題はインドネシア全体がかかえるものとして断片的な知識の教授にとどまりがちである。

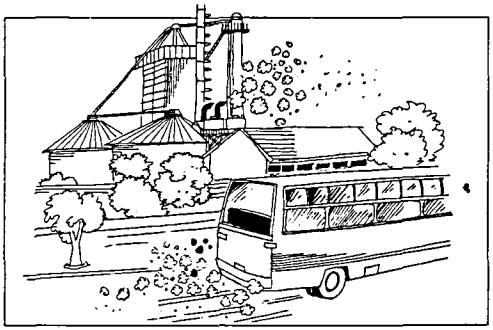
そのため、身近にある諸問題を深く理解し、時間をかけて繰り返し議論し、改善のための方策を実践する意思と態度を形成することが求められて、「ジャカルタの生活環境教育」科（Pendidikan Lingkungan Kehidupan Jakarta）が基礎教育段階で行われることになった。これは、一九九四年のカリキュラム改訂の際に新設された地域科（教育文化省各州事務所が地域のニーズと状況に則して独自にカリキュラム開発を行う教科）内に必修科目として位置づけられ、ジャカルタ市内の小学校第一、第二学年で週一時間、小学校第三学年から中学校第三学年までは週二時間教えられている。

内容は、次の一二領域から構成されている。①ジャカルタ特別市の行政とジャカルタ特別市の市民としての社会的な生活態度、②学校の規則、③人格形成、④公共施設、交通規則、公共の秩序、⑤自然環境、社会文化環境、環境の清潔、⑥洪水の予防、火事の予防、⑦煙草や薬物の誤った使用による中毒の阻止、⑧自己の安全と平和、⑨科学技術、⑩住民、都市計画、住居、環境汚染、⑪エネルギー節約、⑫公園。

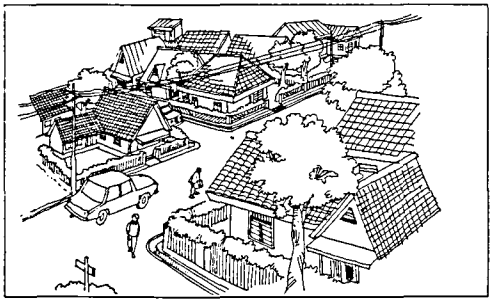
例えば領域⑩「住民、都市計画、住居、環境汚染」について紹介すると、ジャカルタ住民としての諸条件、都市計画、建設物設置計画の説明、都市計画庁の取り組み、都市開発監で積極的な役割を果たせられるように、良いジャカルタ市民、すなわち健康で、清潔で、規律ある市民」の育成、「美しく、安全で、清潔な環境の創造のために望まれる態度や行動へと注意を向けさせる」教育を基礎教育段階で行うこととした。この目的は社会科がその役割の多くを担

査員の重要性、住居の状況（定住地をもたない人が多い状況、洪水が起こりやすく、下水道を完備していない不衛生な居住空間）、ジャカルタにおける住居建築に関する諸規定（地震、洪水、火事対策、多目的建築物および階層ビル建築の推進）、住居所有の条件などについて教えられる。さらに教師が与える課題、例えば「自分の家の火事対策」について五、六人程度のグループで討論が行われる。また深刻な環境汚染の一つであるゴミ処理の問題については、市民にもゴミ処理に対する高いモラルが求められることが教えられる。例えば授業では、「今日自分が何も考えずに捨てたゴミが、明日の大雨で自分の部屋に浮かぶことになり、コレラの病気を発生させる原因になる」ことなどが教師によって体験談をもとに繰り返し説明され、その後グループ学習で自分の地域のゴミ処理についての調査、クラス全体での発表、討論などが行われる。

授業で何度も繰り返される言葉は「環境に対する市民の意識の低さ」である。この問題が解決されることで大きく生活環境が改善されることが期待されている。



「環境汚染」について
3年生教科書，p. 91 より．



「健康に適した生活環境」
3年生教科書，p. 85 より．

なかやあやみ・日本学術振興会特別研究員
一九七一年愛媛県生まれ。広島大学大学院教育学研究科博士課程修了。比較教育学が専門。「インドネシアにおける地域科の成立・展開過程の研究」（博士論文）